



～HIV陽性者の療養生活と就労に関する調査結果報告～

近年、新しい治療法の登場や、HIV治療薬の開発が進んだことで、1996年以前であれば、入院していた方や自宅療養をしていた方も体調を快復し、健康管理をしながら学校や職場、地域での生活を送ることが可能になってきました。しかし、現在でも、通院や服薬をしながらの生活には難しさも伴います。そのなかには、病気から派生するものだけでなく、周囲の人々の理解のなさからくるものも多く存在します。

そこで私たちは、HIV陽性者が生活しやすく働きやすい環境をつくるために、HIV陽性者の療養生活と就労の実態をHIV陽性者本人からみた就労や職場環境、療養生活について調査しました。このパンフレットにその結果の一部を紹介しています。社会的な偏見や差別が存在することも踏まえながら、地域で共に働く仲間としてHIV陽性者を捉えることが、これからの就労環境に求められています。

2005.2

3 プロフィール

4 健康状態

5 HIV陽性者の就労率

6 HIVと知って  
働き方をどう変えたのか？

8 HIV陽性者は  
どんな働き方をしているのか？

10 就労支援サービスの利用

11 現在および今後の生活

## 調査方法

北海道、東京2ヶ所、大阪、九州の5つの医療機関にて、20歳以上65歳未満の外来の患者さんを対象に、自記式質問紙を医療者より配布しました。症状等があって調査依頼が困難な人、初診の人、日本語の読解が困難な人は対象外としました。九州と北海道は期間を限定せず全員に配布、東京は1ヶ月間配布、大阪は150票を配布しました。対象者783名のうち拒否29名、配布754票、回収票566票でした(有効回収率72.3%)。調査期間は2003年12月から2004年5月です。図表のデータは無回答を除いて集計しています。

## 地域で働く仲間として

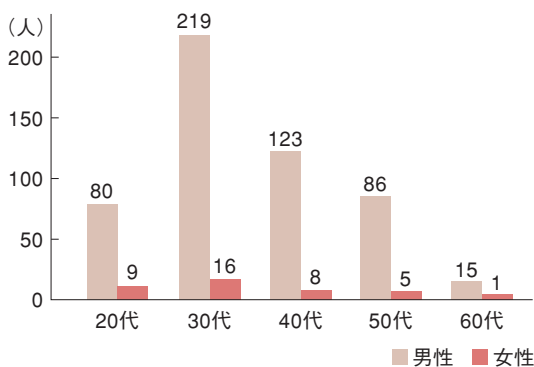
### ～HIV感染者の療養生活と就労に関する調査報告～

平成15-16年度厚生労働科学研究費補助金  
「HIV感染症の医療体制の整備に関する研究」  
代表：木村 哲(国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)

「HIV感染者の地域生活支援におけるソーシャルワークに関する研究」  
分担研究者：  
小西加保留(桃山学院大学)

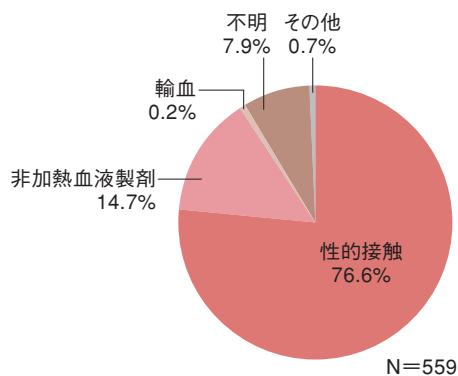
研究協力者：  
若林チヒロ(埼玉県立大学)  
生島 嗣(NPO法人ぶれいす東京)  
島田 恵(国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)

## プロフィール



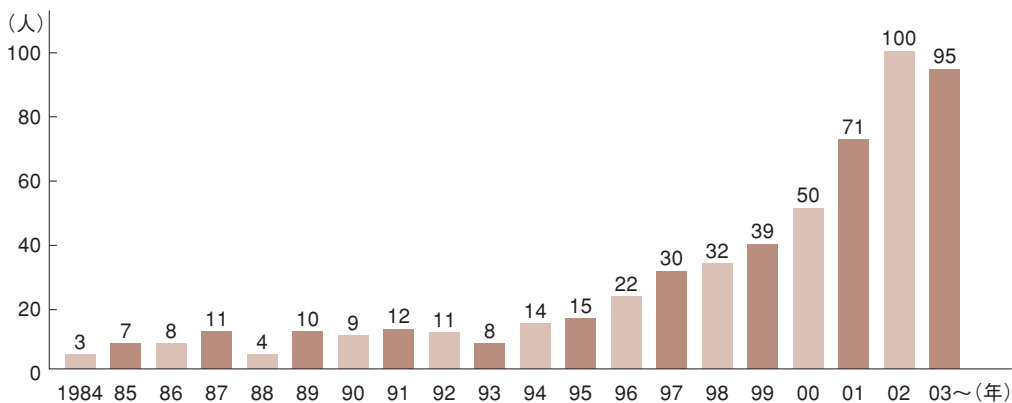
### 性別と年齢

男性が92.7%。年齢は、30代が41.8%、40代が23.2%でした。



### 感染経路

性的接触が全体の76.6%、非加熱血液製剤が14.7%でした。



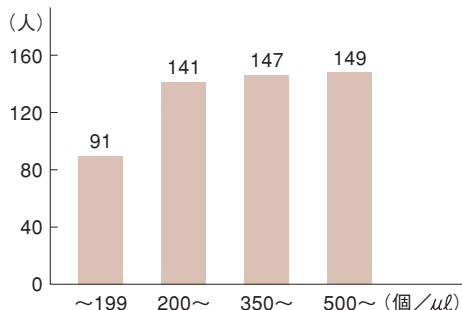
### HIV感染を知った時期

90年以前が9%、91～95年が11%、96～2000年が31%、2001年以降が48%で、抗HIV薬の開発が進んだ96年以降の告知が80%を占めました。



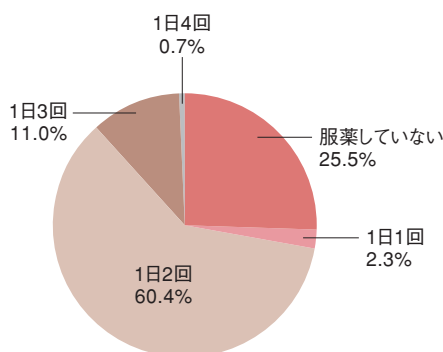
# 健康状態

8割以上の方は免疫の状態が良好に保たれていました。4分の3の方は1日数回の服薬をしています。約4分の1の方は過去1年間に入院経験がありますが、日和見感染症での入院経験がある人は全体の約1割でした。身体障害者手帳は8割の方がもち、2級と3級が多くなっていました。



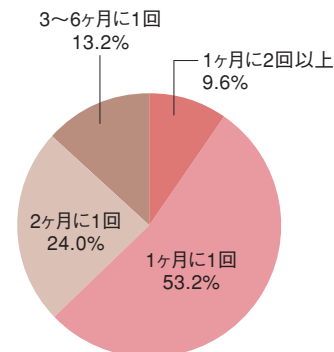
## 免疫の状態 (CD4細胞数)

82.8%の方がCD4細胞数200個/μl以上、61.1%の方がウイルス量は検出限界以下でした。



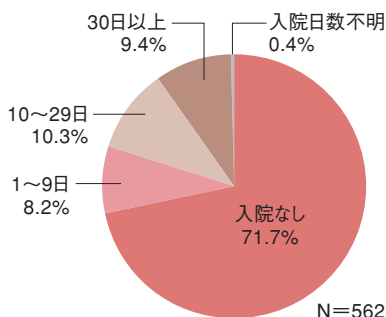
## 抗HIV薬の服薬

74.5%の方は抗HIV薬を服用しており、服薬している人の8割は1日2回の服薬でした。一方で、服薬していないという人も1/4を占めました。



## 通院の頻度

月に1回が53.2%、3ヶ月以上間隔を空けて通院している人も13.2%いました。月に2回以上と頻繁な通院をしている人は9.6%でした。



## この1年間の入院経験

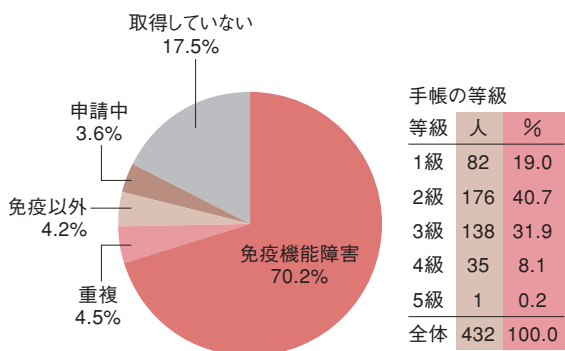
過去1年間に入院した人は28.3%で、30日間以上の長期入院をした人は全体の約1割でした。

	人	%
HIV関連の検査	24	15.2
HIV関連の服薬	21	13.3
HIV関連の症状や日和見感染症	59	37.3
HIVと関連のない病気やけが	55	34.8
その他	40	25.3

注) 複数回答 N=158

## 入院の理由

日和見感染症での入院は、入院した人の37.3%、全体の10.5%でした。



## 身体障害者手帳

78.9%の方が手帳を取得し、そのうち11%の方は免疫機能障害以外で認定を受けており、多様な障害で手帳を取得していることが分かります。等級は2級と3級が多くなっていました。

●12時間以上の勤務や宿泊勤務が増えると服薬の点で心配 (男性・30代・公務員)

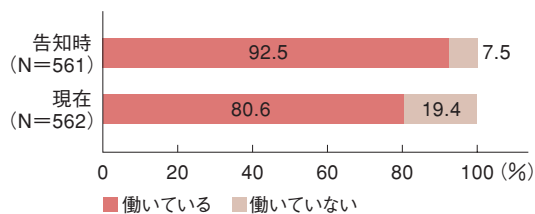
●定期検診のために東京へ2時間30分かけています。東京に行けば個人情報漏れる心配が低いと思ったからです (男性・40代・企業正社員/役員)

●通院についてはまわりに言っていない。人員としての余裕が年々なくなり、厳しくなっていて通院を続けられるかどうか不安である。できれば気持ちよく仕事をしていきたい (男性・40代・公務員)

●病院で月に一回休みを取るほか、体調が悪くて休みをとるが、何の病気であるかははっきり言えず、変に思われているような気がする (男性・30代・公務員)

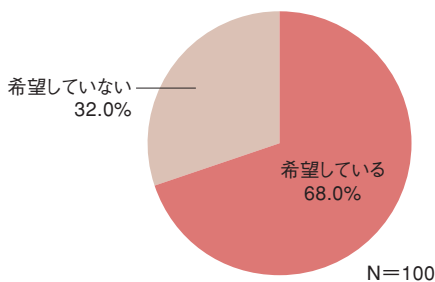
# HIV陽性者の就労率

就労率は感染が分かった時は92.5%でしたが、現在は80.6%でした。低下はしていますが8割の人は働いていました。働いていない人のうち、6割の人は体力や健康上の理由で働いていないとしていましたが、7割の人は働くことを希望しており、体力や健康状態によって調整できる働き方が望まれているようです。障害者雇用制度の利用意向は高く、制度を知らないという人も多くいます。就労・就職に関する制度の活用と周知が必要です



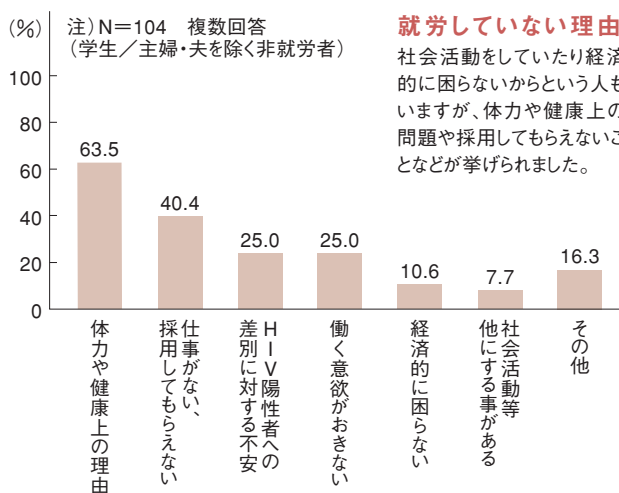
## 告知時と現在の就労率

就労率(学生と主婦を除く人のうち働いている人の割合)は、感染が分かった時は92.5%でしたが、現在は80.6%に低下していました。



## 非就労者の就職希望

働いていない人の68.0%は働くことを希望しており、体力や健康上の理由で働けないという人でも多くは就職を希望していました。

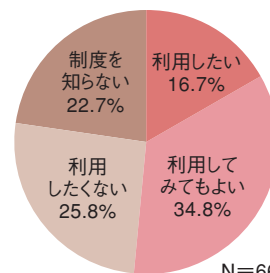


## 就労していない理由

社会活動をしていたり経済的に困らないからという人もいますが、体力や健康上の問題や採用してもらえないことなどが挙げられました。

## 就職を希望している人の、障害者雇用制度利用意向

就職を希望している非就労者のうち半数は障害者雇用制度利用の意向がありました。制度を知らないという人も多くいました。



●もう少しHIVでもOKな企業が増えて欲しい (男性・30代・無職)

●もし働いても、HIV陽性を秘密にしていると、特別障害者控除が受けられない。外見上は元気なのだから、源泉徴収票の障害者控除をうけると何故と理由を聞かれそう。せっかくある制度も利用できない (男性・50代・無職)

●現在のままではいけないと思いつつ、今ひとつ前向きに仕事について考えられない状態です (男性・40代・無職)

●大企業はHIV陽性者を確実に何人かは採用する枠を設けて欲しい。大企業じゃなくても、その府県などで採用枠を作って欲しいです。まだまだ差別があるので一度離職すると就職しにくい。特に失業期間が長いと療養空白期間を説明しにくい (男性・30代・無職)

●履歴書に病気療養中と書くのが抵抗あり。空白があっても特に究明しないように願いたい (男性・50代・無職)

●病院の通院があるので、その点を理解してくれる会社 (男性・20代・無職)

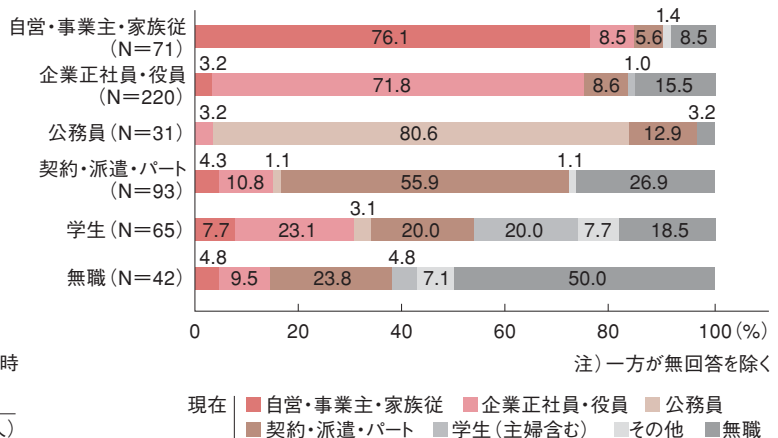
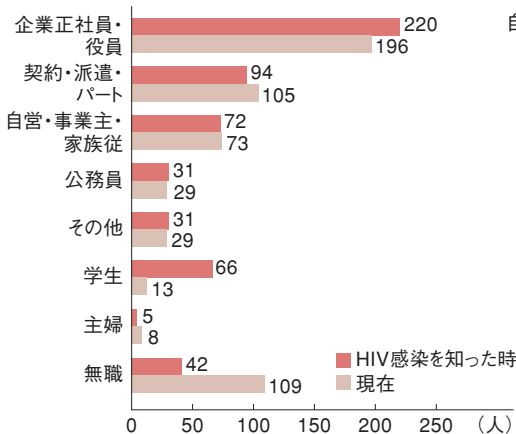
●就職しない人たちについても(精神的なケアについて)対応してくれるところ、人がいない (男性・30代・企業正社員/役員)

●障害枠があっても、この病気ということで選考から外れてしまうのではないかと不安に思います (男性・20代・企業正社員/役員)

●障害者が持つ権利や活動、就職状況などを詳しく知るパンフレットなどがあれば嬉しい (男性・30代・無職)

# HIVと知って働き方をどう変えたのか？

約3分の1の人はHIV感染が分かって以降に離転職を経験していました。離転職の理由は、病名が知られるのではないかと不安や精神的なこと、体力的なこと以外にも、感染をきっかけに価値観や生活観が変化して、健康や生活を重視した働き方に変えたという人もいました。健康とのバランスをとりながら安心して働ける職場が求められているといえます。

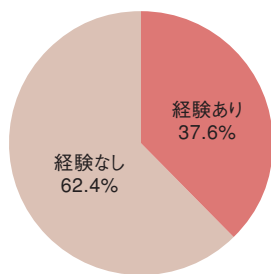


## HIV感染を知った時と現在の職業

学生と企業の正社員・役員が減少し、派遣・パートなどの非正規従業員がやや増加、無職が増加していました。

## HIV感染を知った時の職業別、現在の職業

告知時に派遣・パートであった人の26.9%が無職になっており、学生であった人では企業の正社員や公務員になっている人が26.2%で、厳しい就職環境であることがうかがえます。



注) 就労経験のない人は除いて集計 N=532

	N	%
自らの意思でやめた	125	64.1
やめざるをえなかった	55	28.2
解雇された	15	7.7
合計	195	100.0

## 離転職した人の辞め方

HIV感染を知られて辞めた人は10名おり、うち2名は解雇によるものでした。数は少ないものの、けっしてあてはまらないことです。

	N	%
体力的なこと	80	41.7
労働条件・仕事内容の問題	65	33.9
仕事より健康や生活を重視	43	22.4
精神的な問題	39	20.3
より良い仕事が見つかった	29	15.1
感染を知られる不安があった	26	13.5
会社都合 (リストラ含む)	23	12.0
人間関係	23	12.0
通院が困難	22	11.5
入院	18	9.4
服薬が困難	13	6.8
HIV感染を知られた	10	5.2

注) 複数回答 N=192

## 離転職した理由

体力的なことがもっとも多いですが、仕事より健康や生活を重視してという人も少なくありません。服薬など健康管理上のことよりも、精神的な問題や感染を知られる不安をあげた人の方が多くいました。

## こんな労働環境が働きやすい

- 同情無しで働ける (男性・30代・パート・アルバイト／サービス職)
- 普通の職員と変わらない接し方をしてくれ、かつ体面健康面を考慮してくれる (男性・20代・企業正社員／専門・技術職)
- HIVポジティブという事より、1人の人間として見てくれている。しかし、肉体的負担については気遣いを周囲に知られない様にしてくれている (男性・30代・その他／その他)

- 半休が使える (通院の為) (男性・20代・企業正社員／事務職)
- 「職場でのHIV」という小冊子が職員全員に配布され、認識を高めている (男性・30代・企業正社員／専門・技術職)
- 事務職なのでデスクワークなのが良い (女性・20代・派遣／事務職)
- 保険組合は別会社 (親会社) が運営している事 (男性・20代・企業正社員／事務職)

- 小さい会社だからなのか、社長の性格なのかかわからないが、通院を続けていることについて特に詮索されないのが助かる  
(男性・30代・企業正社員／専門・技術職)
- シフト制なので通院の為に欠勤・遅刻の必要がない  
(男性・30代・派遣／事務職)
- 女性にとっても働きやすい職場とみなされており、実際、産休、育休も多く取られている所をみると、HIV感染者でも働きやすい職場といえる  
(男性・30代・公務員／事務職)
- オーナー社長の小企業で、HIVに関してよく勉強し、理解している。総務部長なので情報を全て自分で理解できる  
(男性・50代・企業役員／管理職)
- 外勤であるため、通院が比較的しやすい  
(男性・30代・企業正社員／販売職)
- 少人数の仕事がら、周囲に病気の説明（事前）に理解し、生活と職場の両面、勿論病気に対する通院等のやりやすさ、相互のコミュニケーションを大切にしています  
(男性・30代・パート・アルバイト／専門・技術職)
- 時間が自由に使えるので通院しやすい  
(男性・30代・企業正社員／事務職)
- 個人のプライバシーには立ち入らないという雰囲気が支配的であること  
(男性・40代・公務員／専門・技術職)
- 病気を理解してくれている  
(男性・50代・パート・アルバイト／販売職)

- 人権に関する教育システム（障害全般、同和等含め）  
(男性・40代・企業正社員／管理職)
- 通院に関し有給休暇が取りやすい  
(男性・50代・企業正社員)
- 労働組合がしっかりしていて、安心できる（有給、療休制度もいざとなれば、きちり取れる）  
(男性・30代・公務員／事務職)
- 医療費のお知らせが保険組合から自宅に直接送られてくるから会社に知られる事はほぼない  
(男性・40代・契約社員／販売職)
- 個人詮索しない。深いつき合いをしなくて済む（企業が大きいから？）  
(男性・40代・企業正社員／事務職)
- 健康診断、健康保険などの制度がないのでHIVであることを知られるという不安がない  
(女性・30代・派遣／事務職)
- 障害者の多く働く法人なので、プライバシーの管理やその対応がしっかりしている所  
(男性・20代・パート・アルバイト／専門・技術職)
- 営業で1人で仕事をするので体調が悪く休んでも他の人に迷惑をかけることが少ない  
(男性・40代・その他／販売職)
- アルバイト+自宅でできる仕事なので、自分の体調に合わせて仕事量の調整ができる。15年やっているせいもあり、信頼感をbaseに、体調不良時など配慮してくれる  
(男性・40代・パート・アルバイト／その他)

## 改善して欲しいポイント

- 各拠点病院のコーディネーターやソーシャル・ワーカー間での既存の制度やサービスの情報の共有を徹底してもらいたい。なにか問題に直面した時に、最初に相談する人たちのので  
(女性・30代・派遣社員／事務職)
- 月1回程度の通院ならば、大げさにならない程度の疾患名での医師の診断書が出してもらえればありがたい。土日の診察、夕方からの診察日を設けてもらえるとずいぶん精神的負担が減ると思う  
(男性・40代・近県・企業正社員)
- 会社への告知という問題は、まずそれに対するしっかりとした体制が見えないといけない気がします。特に管理職に対する教育は必須ではないかと思ます  
(男性・30代・事業主／管理職)
- 医療関係であるにもかかわらず、感染症に対しての無知もしくは知識レベルの低さ  
(男性・30代・企業正社員)
- 海外駐在でHIV陽性チェックを義務付ける国があるのでいつ露見するかかわからないという不安がある  
(男性・30代・企業正社員／管理職)
- ハローワークや障害者就職面接会で、回りにも聞こえる程の声で、病気の事を聴かれた。仕事の事以上に時間を費やされるので、あまり期待出来ない  
(男性・40代・無職)
- 2次健診の受診の指示は誰にも分からないように秘密に行ってほしい  
(男性・20代・公務員／事務職)
- とにかくHIVをふせていきたいので、あらゆる機会で個人情報漏れないように万全を期してほしい  
(男性・30代・公務員／その他)

- 組合健保の付加給付制度があるが、部局の会計係を通じて行われるのでかなりの額を定期的に受け取ることにかなり気がつかざるをえないこと  
(男性・40代・公務員／専門・技術職)
- 普通の社会人として働いているが、やはり肉体的に辛い時があるので、時間管理のしっかりしている、それでいて“障害者雇用”という扱いを受けない企業があればいいと思う。やはり、障害者雇用だと、給料が下がるので、現状では、その方向へは転職出来ない  
(男性・20代・企業正社員／事務職)
- 肉体的労働は困難なので、技術を身につけていとか、工夫の余地が多くあり、そういう意味では、キャリアupのための援助、支援体制の充実こそ、求められるべきものではないか。甘えを許す制度ではいけないと思う。身障であってもなくても就労について1人の人間として努力することについては平等であるはず  
(女性・50代・福祉)
- 就職支援制度があるなら是非利用したいがどこに相談すれば良いのかわかりません。看護師さんやソーシャルワーカーさんが常に忙しくしているので相談しにくい。相談の為にホットラインなどを開設してもらえれば相談し易いのですが  
(男性・30代・無職)
- 身体が悪いものでもそれにあわせて働けるよう雇用環境を勧めてほしい。血友病による障害と重複して正直つらい。レベルは低くても社会人として精一杯働き社会に貢献したい  
(男性・40代・公務員)



# HIV陽性者はどんな働き方をしているのか？

9割の人は週5日以上働いており、派遣やパートの人も労働日数を減らしているわけではありませんでした。業種はサービス業を中心に多様で、職種は現業職より専門技術職が多いという特徴がありました。3割弱の人は同僚や上司など職場の誰かに病名を伝えており、精神的負担が軽くなったことや健康管理がし易くなったことなど肯定的な評価をしていました。働いている人の多くが、職場に病名を隠すことの負担感やHIVに対する無理解を感じているのですが、同時に、仕事にやりがいや面白さを感じていて、全体的には働きやすい職場だと評価していました。

職種	人	%
専門・技術職	123	29.3
事務職	95	22.6
サービス職	55	13.1
管理職	46	11.0
販売職	39	9.3
生産工程・労務作業	12	2.9
運輸・通信	8	1.9
保安職	4	0.9
農林漁業作業	1	0.2
その他	37	8.8
合計	428	100.0

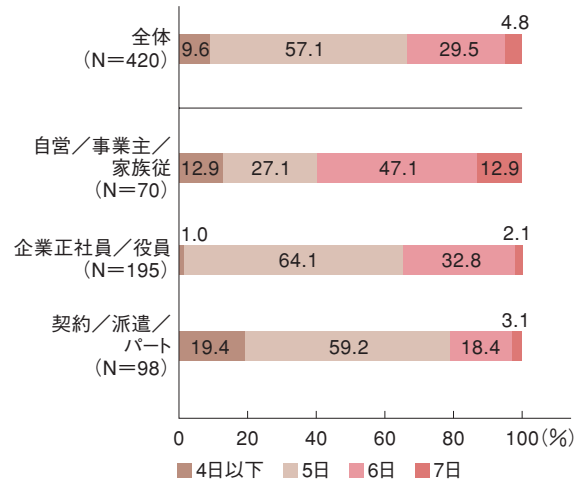
## 職種

専門・技術職や事務系職種が中心で、生産・労務などの現業職は1割にも満たない人数でした。

業種	人	%
医療・福祉	49	11.7
卸売・小売業	40	9.5
製造業	39	9.3
情報通信	35	8.3
教育・学習支援	28	6.7
飲食店・宿泊業	24	5.7
公務	22	5.2
建設業	19	4.5
運輸業	16	3.8
金融・保険業	13	3.1
電気・ガス・水道	3	0.7
不動産	3	0.7
上記以外のサービス業	90	21.4
その他	39	9.3
合計	420	100.0

## 業種

サービス業が多く、医療・福祉、教育・学習支援など多様な業種で働いています。



## 1週間の労働日数

派遣・パートの80.6%の人は週5日以上働いており、労働日数を減らしているわけではありません。自営業・事業主は60.0%の人が週6日以上働いていました。

●シフト制で平日休みがとりやすいので通院しやすい (男性・20代・企業正社員/役員)

●フリーランスの個人的なwork (男・50代・自営/事主/家族)

●人員不足によるサービス出勤や残業を無くして欲しい。きちんと出勤中の休憩やシフト制であっても休日を与えて欲しい。一日の労働時間が基本的に長すぎる (男性・20代・企業正社員/役員)

●病気のことを知らせないでも、自分の体調に合わせた勤務体系にしていただけがあればありがたい。有給も消化できず、月に8回24時間近く働いているので苦しいです (男性・30代・公務員)

●HIVポジティブという事より、1人の人間としてみてくれている (男性・30代・他/福祉)

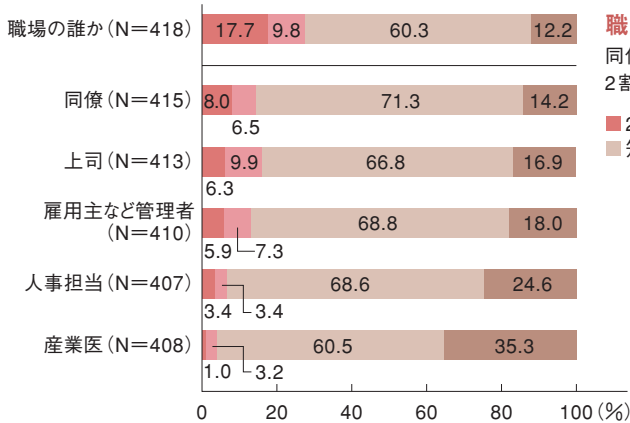
●産業医の対応が誠実。医療情報の通知が密閉式である (男性・30代・企業正社員/役員)

●以前と対応が変わらないので楽 (男性・30代・企業正社員/役員)

●医療関係の仕事をしている為、上司は支援的 (男性・30代・企業正社員/専門)

●利用者さんと接することがいちばんです (男性・20代・福祉/サービス職)

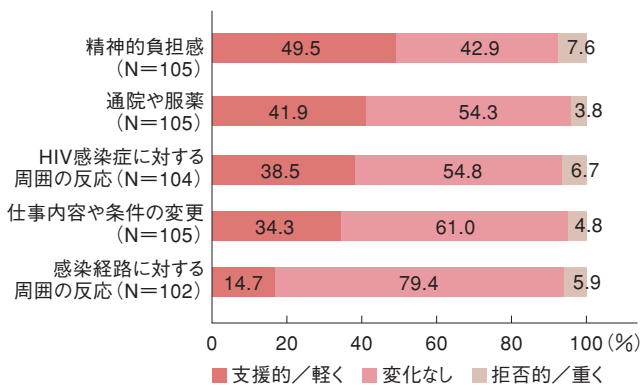




### 職場で病名を知らせている範囲

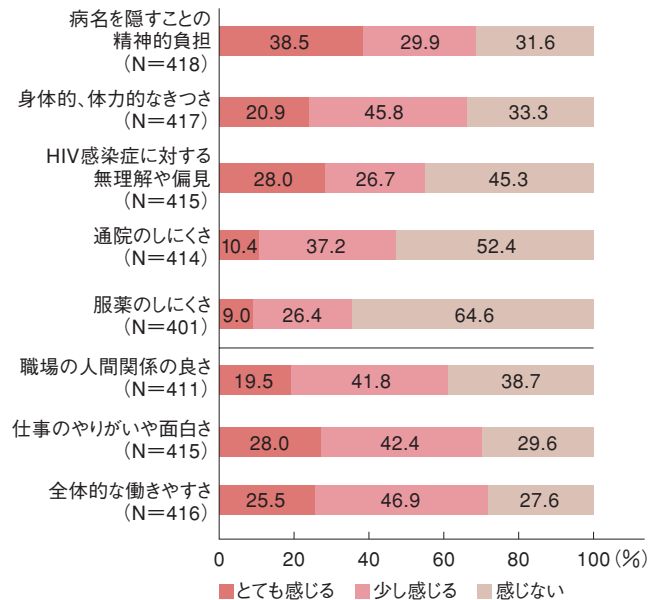
同僚や上司、雇用主などに対して病名を知らせている人が、それぞれ1~2割おり、27.5%の人は職場の誰かにはHIV感染を知らせていました。

■ 2人以上知らせた ■ 1人知らせた  
■ 知らせない ■ 該当する人がいない



### 職場で病名を知らせたことによる変化

否定的に評価している人はわずかで、多くは肯定的なものは変化なしという評価でした。もっとも評価が高かったのは精神的負担感の軽減でした。



### 現在の職場に対する評価

困難なこととして、HIVへの無理解や偏見、病名を隠す負担感をあげており、これは通院や服薬よりも多くなっていました。良い面は、やりがいや面白さを感じるとしており、72.4%の人は働きやすさを感じる職場と肯定的な評価をしていました。

●今は派遣社員で何食わぬ顔で働いていますが、もうじき社会保険に入らなければならず不安は続きます。でも頑張ります (女性・20代・契約/派遣/パート)

●派遣社員なので、良くも悪くも医療関係は自分でするものであって個人的には安心している。また、休みもある程度は自分の希望が通るのもありがたい (男性・20代・契約/派遣/パート)

●自分の体調に合わせて仕事の量を加減できる (男性・30代・他/福祉)

●体調が悪くてもなかなか休めない (女性・20代・企業正社員/役員)

●時間帯が不規則で (準夜勤状態) で1日2回の服薬が困難 (男性・40代・公務員)

●健康保険などからの書類なども、直接本人に通知が来るので、たとえ上司でも中身を見れない点がいい (男性・30代・企業正社員/役員)

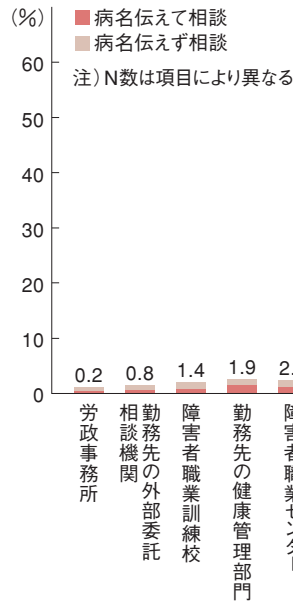
●HIV陽性であることを公表していないので、わからない (男性・30代・企業正社員/役員)

●土日出勤があるため平日に代休が取れ、病院に行ける (男性・30代・企業正社員/役員)

●社長が理解を非常に示してくれているので、問題はありません。但し、薬の副作用で体調が悪くなった際、怠けだと判断されていた事が過去の会社でありました (男性・20代・企業正社員/役員)

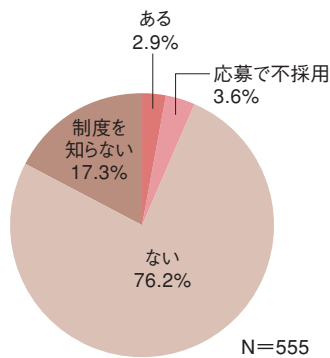
# 就労支援サービスの利用

就労や就職に関する相談先は医療者が中心で、公的な相談機関はほとんど活用されていませんでした。就労している人も医療者を相談先としており、病気をもって働き続けるうえで相談のニーズがあることがうかがえます。障害者雇用制度については制度自体を知らないという人も多く、まずは制度の周知と、既存の就労相談機関において病名を理解して相談にのれるような体制が必要でしょう。



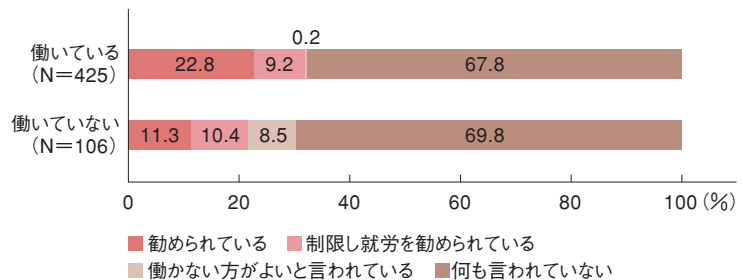
## 就労についての相談先

相談先は医療者が中心で、公的な就労・雇用支援機関がほとんど活用されていません。無職の人でもハローワークを利用した人は36.4%です。



## 障害者雇用制度での就労経験

現状ではあまり利用されていません。制度を知らないという人もおり、今後は制度の周知・活用も必要です。



## 就労についての医師のアドバイス

働いていない人も、医師から就労を止められているわけではなく、むしろ勧められている人が多いことがわかります。

● 就労中に問題が起こった場合、相談できる機関があればと思います (男性・30代・契約/派遣/パート)

● 就職先の紹介があればいいと思うのですが、就職自体誰にとっても大変な世の中なので、特に何かに頼ろうという気持ちはありません (男性・20代・契約/派遣/パート)

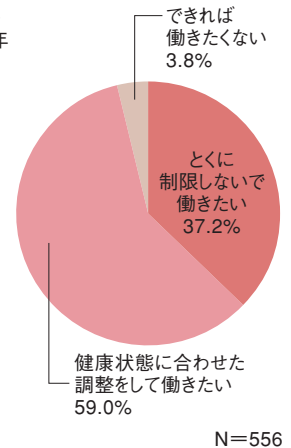
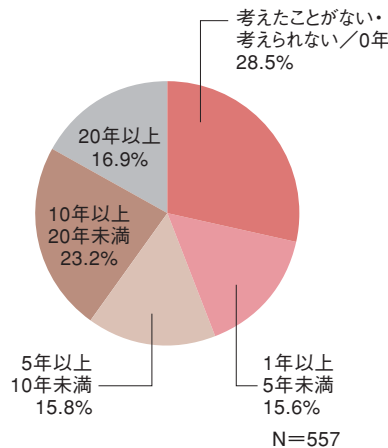
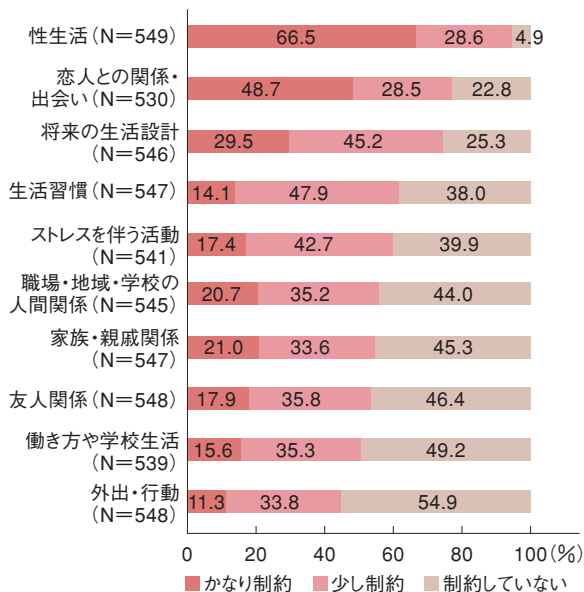
● 以前、障害者の就職支援週間みたいなものがあり電話で問い合わせたところ、対象者としてHIV感染者は入っていないとの返事をもたらったことがあります。HIVを含み、内的な障害は外的なものと区別されることがあるみたいなので、その区分がわかるような表現、サービスなどを表記して欲しい (男性・40代・自営/事主/家族)

● 障害者雇用制度は主旨としては立派だが、雇用者や企業に対しての罰則や強制力が弱く、形がいかたしている面がある。多くの場合専門職への就労には適用されず、そういった技術知識習得への援助も不十分。もっと幅広い能力開発の機会が与えられるとよいと思う (男性・30代・公務員)

● 一度ハローワークに行ったがHIV感染症が障害者だという認識が低く、説明に苦労した (男性・40代・企業正社員/役員)

# 現在および今後の生活

性生活や恋人との関係については制約しているとした人が多いのですが、人間関係や日常生活については制約していないという人も少なくありませんでした。将来の生活設計については、長期的に考えている人と先のことは考えられないという人とで幅がありましたが、働くことはほとんどの人が希望しており、健康とのバランスを取りながらの生活を望んでいる人が多いようです。



## HIV陽性者、ふだんの生活で何が違うの？

性生活、恋人との関係、将来生活設計は多くの人が制約していると感じていました。家族や友人との人間関係については、制約感のある人も一方で制約を感じないという人も半数弱いました。

● 誰にも告知していません。案外それでも普通の生活が送れています。他人に病気のことを言うと心配されるので、まだまだ差別等は強くあると自分では思っています (男性・30代・公務員)

● 続けるということは、簡単に身体の調子がいいから出来るというものではない。具合が悪くなった時にしっかり休みをとれるか。病気の特長に対する周囲の理解がなければ居心地が悪くならないか等課題はたくさんある (男・20代・他/福祉)

## 将来の生活、何年先まで考えていますか？

20年以上先という長期的な視点で生活設計を考えている人がいる一方で「考えられない/0年」という人もおり、かなり幅のある回答でした。

## 今後、働くことをどう考えていますか？

大部分の人が将来は働くことを希望しており、健康とのバランスをとりながらの就労を望む人が多いようです。

● 一番良いのは、HIV陽性が判明するまで就労していた就職先を変更せずに済むことだと思います (男性・40代・企業正社員/役員)

● 今は多くの制度にたよって生活しているが、一日も早く自立して働きたいと思っている人は多いと思うので、できるだけ早く支援制度の充実を検討してもらいたい。また直接人の為になって働ければ精神的にも楽なのですが (男性・30代・無職)

## 地域で働く仲間として ～HIV感染者の療養生活と就労に関する調査報告～


謝辞：本調査にご協力くださったHIV陽性者の方々および配布にご協力下さった下記の医療機関の方々に心より感謝します。

大野稔子 (北海道大学病院)、村上未知子 (東京大学医学研究所 附属病院)、織田幸子 (国立病院機構 大阪医療センター)、城崎真弓 (国立病院機構 九州医療センター)、池田和子、武田謙治 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)

編集：若林子ヒロ、生島 嗣、大内幸恵、小西加保留  
 冊子デザイン：新藤岳史  
 連絡先：NPO法人ぶれいす東京 研究事務局  
 東京都新宿区高田馬場4-22-46 ザ・テラス304  
 ☎03-3361-8964  
 research@ptokyo.com

発行：2005年2月14日





地域で働く仲間として  
～HIV陽性者の療養生活と就労に関する調査結果報告～